

平成二十二年 度 小論文試験

受験番号

氏 名

①

「間合い」とは、良好な人間関係を保つために豊富なレパートリー・メニューの中から、適切な言語的・非言語的行動を選び出して①リンクオウヘンに対応することである。この「間合い」には、時間的「間合い」、距離的「間合い」、心理的「間合い」の三つの側面があつて、それらは相互に関連し合っている。「間合い」作りが上手な人とは、自分を殺して相手に①「ダイゴウ」するという意味ではなく、自分の個性や気持ちを大切にしながら他者との対人的な相互作用をうまく作り出して、メンタルヘルスを良好に保つ人を指す。

われわれは、いまでも特別に重要な要件は、お互いに対面して話す機会が多い。それは、対面的コミュニケーションの長所を知っているからである。対面的な方法では、十分に質疑を重ねて誤解なく意思の②「ツウ」をはかり、納得のいく結論を共有することが可能である。それは、表情や声の調子と速さ、ジェスチャーなどの相手の気持ちに関する手がかりや情報をえられるため、つまりは判断の根拠となる資料が豊富なためである。このような体験的空間における距離的「間合い」や時間的「間合い」は、パーソナル・スペースに反映されたり、あるいは、③「セ」の言説に言う④「腹芸」として解説されてきた。メディア空間で体験的空間と同じ効果をケータイで果たそうとするがゆえに、頻度や内容の工夫という④「ダイタイ」的処置で心理的「間合い」を維持しようとしているのである。

ケータイ通信やテレビ電話の特徴は、すでに多く語られているように、不都合ならば一方的に切ることができる点にある。これは、相手との時間的「間合い」や心理的「間合い」が自分にとって不適切であると判断した時に、体験的空間で距離的「間合い」を遠くにとることと⑤「クジ」している。体験的空間においては、気まずい思いやストレスを感じるといった心理的「間合い」の時には距離的「間合い」をとって遠方へと離れるが、ケータイではそれが一瞬でできる。このため、その時点での心理的ストレスは非常に低い。

しかし、ケータイなどで一方的に相手からの心理的「間合い」を遠ざけられた側は、疎外感が生じてストレスが強くなるのである。そこで、一方的に打ち切られないための方略をわれわれは考える。まず大勢のメールアドレスをひとまずは確保しておく。これは、メディア空間上での対人的関係の「間合い」をとる機会を確保することに他ならない。次に、自分の気分や必要に応じてメールで連絡をする。これは家にいながらにしてでき、相手の反応を見ながら徐々にコミュニケーションがとれるという点で、体験的空間の「間合い」よりも手軽である。また、相手もそのように思っている。お互いに自分のペースで「間合い」がとれる環境ができているのである。

青年期は他者との連帯感や孤独感を強く意識する時期である。若者のケータイ利用やそれへの依存は、これまで以上に極端な形で他者との「間合い」のとり方がわれわれの目の前にあらわれてきているのだと言えよう。

大野木裕明『間合い上手 メンタルヘルスの心理学から』（抄）

（注）メンタルヘルス：こころの健康

メディア空間：メディア利用による代理体験に基づく生活空間

問一 本文の論旨を示すため、①にいれるべき表題を20字以内で書きなさい。

問二 本文中①リンクオウヘンを漢字で書きなさい。また、その意味を20字以内で書きなさい。

問三 本文中の①から⑤の語句を漢字で書きなさい。

問四 本文で用いられている⑥「腹芸」の意味を20字以内で書きなさい。

問五 対面的コミュニケーションと比較して、ケータイコミュニケーションにおける他者との「間合い」のとり方にはどのような特徴があるのか、著者の考えを350字から400字以内で書きなさい。

